

畑石議員（自民議連）

平成 29 年 2 月 27 日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）学校現場における発達障害児支援の課題と福祉との連携について（再質問）

教育長から、スクールソーシャルワーカーなどを活用してという話があったが、人の配置だけでは、発達障害の子供達の支援に有効に結びついていない部分がある。

学校現場は先生達にとって聖域化している部分があり、外部者への抵抗感のようなものもあり、極めて深刻な状況になって初めて発表という状況も見受けられる。

そのため、こうした仕組みで対応すると言うだけではなかなか機能しない問題であり、先生方に、具体的仕組みの構築とともに、教育と福祉を連携させていくことが如何に重要かという意識の啓発・教育も必要になってくると思う。

そうしたもう一歩踏み込んだ対策を取らないと、先生のやることばかりが増え、実際に子供達に目を向けることに本来は集中すべきところができなくなるのではないかと思う。この点についてもう少し踏み込んだ考えを聞かせていただきたい。

（答）

学校と福祉機関の連携は大変重要であると認識しており、この間を取り持つスクールソーシャルワーカーの役割は非常に大切であります。

学校や教職員がスクールソーシャルワーカーの役割や学校との関係をしっかり理解し、活用していくことは、非常に重要であると考えております。

教育委員会といたしましては、スクールソーシャルワーカーの活用事例、実際にどういうことがなされているのか、どういうことが効果的であったのか、そういう事例をしっかりと紹介したいと考えており、様々な研修会の中で、そういう事例等も紹介し、学校が本当に福祉機関と、スクールソーシャルワーカーを通して連携して進めていけるように、しっかり支援をしてまいりたいというふうに考えております。